

2011年11月21日(月)

袖ヶ浦市・市長 出口 清 様

市民が望む政策研究会・会長 関 巖

子どもの未来を守る会・会長 佐藤 恵理子

放射能に汚染された廃棄物を水源地に搬入することの反対表明と  
中止要請意見書を知事宛提出することを求める申し入れ書

まずは、出口市政第2期を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。市長の清潔な姿勢と真摯な市民への対応が、市民ひとりひとりの心を捉えたのであらうと推察します。今期も引き続き、私たちは、率直な意見を申し上げますが、決して敵意で申し上げているのではないことをご理解いただき、自立と協働のまちづくり前進のために、お互いの意見交流を重ねることで、理解を深めて行きたいものと願っています。

ご健闘を期待申し上げます。

さて、すでにご承知のとおり、小櫃川の水源地にある新井総合株式会社経営の産業廃棄物最終処分場に、最大 5760 ベクレル/kg ものセシウム汚染汚泥が連日搬入されています。

(新井総合(株) HP10月5日公表分)

富津市、君津市、木更津市、市原市の一部、そして袖ヶ浦市の5市35万人の水道水は、小櫃川下流から取水されています。また流域には豊かな農地が広がっています。水に容易に溶けるセシウムが体内に入れば、一生内部被爆が続き、癌になる確率は幼い子や、若い人ほど跳ね上がります。このような処分場に上限8000 ベクレル/kg もの汚染汚泥の搬入を許可するなど、常識的には考えられないことといえましょう。

私たちが恐れていることは次の点です。

- 1、 処分場に埋め立てることのできるセシウムの上限を、原発事故以降何の根拠もなくそれまでの基準である100ベクレル/kgから、管理型という条件付きで、8000ベクレル/kgに上げました。放射能ごみの一部を一般ごみ化すること(クリアランス制度)は非常に危険なことであることを、専門家はすでに指摘しています。(「原爆の闇を暴く」広瀬隆、明石昇二郎著)それも水源地です。その水を日常的に使う住民にとって考

えられないことです。

- 2、 10月29日付の毎日新聞には、新井総合（株）における搬入汚泥のずさんな処理についての記事が掲載されています。本来おおむね50cmの覆土をしなければならないものを、放置したままにしていることに対して改善勧告を受けた記事です。
- 3、 セシウムは容易に水に溶けます。溶けた水をずっと溜め続けることは、処分場の構造上無理です。結局セシウムは小櫃川に放流されます。現に伊勢崎の処分場の放流水から基準を超えたセシウムが出ています。1970年7月のような大雨があれば、処分場の水は溢れて川に流出します。大規模な土砂崩れなどがおきれば、汚染物質そのものが川に流れ出るでしょう。いずれも起こりうることで、起きたら取り返しのつかないこととなります。
- 4、 セシウムの半減期は30年といわれています。8000ベクレル/kgのセシウムが100ベクレル以下になるのには200年もかかります。
- 5、 10月21日のテレビ朝日は、チェルノブイリ原発事故16年後の実態を放映しました。この「チェルノブイリ・ハート」と題したドキュメンタリー映画は国連でも放映されたもので、16年後に生まれた子どもの中に、心臓に穴のある疾患を持った子どもや、奇形児の実態が映し出されています。内部被爆の恐ろしさが次世代にまで続くことを訴えたものです。
- 6、 現在、私たちのところには、子どもを学校に通わせている母親からの相談が多数寄せられています。

「息子はのどが渇いても我慢して帰ってくるのです。子ども達の間でも話し合っているそうですよ。学校は水筒持参禁止だけど学校の水は大丈夫なのですか？」

「給食は大丈夫なのでしょうか・・・柏市のような放射線量を計測してくれるところはないのでしょうか？」

「ゆりの里などで放射線量を計測してくれるといいですね。」

「取水汚泥から放射能が検出されたそうですが本当ですか？」

といった、親としての当然の心配です。

袖ヶ浦市には、「水道水源保護条例」という、先達が制定した、誇るべき条例があります。また現在、残土埋め立て規制条例（仮称）も策定中です。全国的に見れば、放射性物質を含む廃棄物拒否の条例を策定している自治体もあります。（「どうする放射性ごみ」西尾漠著で紹介）私たちの願いは、この自然豊かな、安心して暮らせる袖ヶ浦市を、不安に陥れるような今回の一方

的措置について、即刻中止していただきたいこと、これ一点です。私たちはその実現を目指し、署名運動を開始しました。半月で4500通を超える署名が集まっています。引き続き10000筆の目標で取り組んでいるところです。

周辺市長の対応を紹介します。

木更津市長～この署名に署名されました。

君津市長～知事に「施設近くを流れる川は周辺4市の水がめで、放射能が流れ込むと大変。

私たちも安全だと説明しきれない」「市内のシイタケが暫定規制値を超えたことも重なり、地元はパニックになっている。（窮状を）もっと身近に感じてほしい」「他の場所からあまり持ち込まないで欲しい」と訴えました。

富津市長～「3市(持ち込みの処分場がある富津、君津、銚子)の担当で今後の対応を協議したいと思っている」とのことです。

このように、いずれも反対を明確になさっています。出口市長にも明確な対応を期待申し上げる次第です。お願いしたいことは次の2点です、

- 1 12月議会では議員からこのことにかかわる質問が出ることは必至です。  
市長は毅然として搬入反対を表明していただきたい。
- 2 許可権限を持つ千葉県知事宛に搬入中止の意志を明確に伝えていただきたい。

市長の初仕事が、市民にとって

「やはり出口市長！投票してよかった！市民の安全を第一に考えていらっしゃる。」と、誇らしげに語るができるような、ご回答をいただけますよう期待するものです。

以上